

既習事項を基に自らの考えを表現できる生徒の育成

—経済的事象を事例とした動画教材を活用したグループ学習を通して—

特別研修員 商業 大和雅史（高等学校教諭）

生徒の実態

- 教科書の内容について基本的なことは理解できているが、学習内容と身の回りで起きている経済的事象とを結び付けて考え、表現する力が不十分である。



経済的事象について考えさせるための工夫とは？



生徒の表現力を高めるための工夫とは？

手立てその1

■経済的事象を事例とした動画教材の活用

- 身の回りで実際に起きている経済的事象の動画（経済番組等）を視聴し、既習の学習内容との結び付きについて気付く。
- 学習課題に対する自らの考えを、付箋に書き出す。

フードバンクへの寄付は企業の社会的責任と言えるでしょうか？



困っている人への寄付が、企業の責任になるのかな？

手立てその2

■個人の意見を基にしたグループ学習

- 付箋に書き出した各自の意見をグループ内で共有する。
- グループで協議し、結論をまとめ、その理由を発表できるようにする。

多くの企業が実際に寄付をしているみたいだよ

寄付によって、受け取る側の自立を妨げてしまうかもしれないね

企業の社会的責任の範囲を、教科書で確認してみよう



目指す生徒像

- 学習内容と身の回りで起きている経済的事象との結び付きに気づき、自らの考えを表現できる。



【成果】

- 動画教材を視聴することで、生徒にとって身近な事として捉えることができ、自らの考えを付箋に書くことができた。
- 自らの考えをもたことで、グループ内で様々な意見を出すことができていた。また、生徒全員が「他者の意見は参考になった」とアンケートで回答した。
- 学習課題に対する結論とその理由について、全てのグループが個人の意見を基にまとめ、発表することができた。

【課題】

- 学習課題の結論を、インターネットの検索結果から導こうとするグループがあった。教科書等の既習事項から考え出させるための工夫が必要である。
- 地元の経済的事象や地域ビジネスの動向、地域資源に目を向ける指導の工夫が必要である。